令和５年度　学校評価報告

令和５年度（自令和５年４月１日至令和６年３月 31 日）学校評価アンケートを、生徒・保護者及び教職員に配布し、有効回答のあったものについてその結果を別紙とともに学校評価を報告する。

（１）教育課程・学習指導等

シラバスなど時代に見合った改善や見直しを毎年行い、全体的な教育内容の充実を図っている。そのことが確実に進級率に反映されており 94.8%は達成できたが、この数字に満足することなく今後は更なる充実を目指し、進級率 100%を常に目指していきたい。令和２年度よりスタートしたオンライン授業については一部『理解しにくい』との回答もある。これらのことには、教科・科目担当の教職員とともに、真摯に内容改善に向き合わなければならない。進路指導も同様に丁寧かつ適切に行っていく必要がある。

（２）教育相談・メンタル面へのサポート体制等

コース別担任制と、それをサポートする養護教諭やカウンセラーの協力態勢が非常に有効的に機能しているが、開校以来蓄積してきた指導のノウハウや教職員のスキル向上により、生徒の学校での生活態度が安定している。

当校としても、この状況に安住することなく、カウンセラーなど外部専門家に任せきりにしないために、教職員自らが「教育カウンセラー」の資格取得に向けた取り組みをスタートさせている。先行するキャンパスではすでにこの効果が表れており、早期の段階で教職員全員が資格取得できるように研修を行っていきたい。また、教員の育成に向けて、授業力向上委員会の活性化、新任・若手教員研修の定例化と人材育成研修の充実を図る予定である。

（３）キャリア教育と進路指導

丁寧な個別の面談を繰り返し、難関大学や芸術系大学、専門学校への進学、プロになるために声優や俳優の養成所への進学、美容室やネイルサロン、アパレルショップ等の就職者数も年々上昇しており、自ら望む専門分野への道を選択している生徒が進路決定している。今後も引き続き、社会に信頼され指示されるよう、生徒と保護者、関連する業界関係者、地域と連携をとりながら当校ならではの進路指導の充実を図っていきたい。

また、３年間学んできたことを活かした上で、別の分野への道に進む生徒もおり、進路は多種多様である。芸術高校だから芸術の進路しかないということではなく、専門的なことを学んだ先に多くの選択肢が見えてくることに気付きがある。

それぞれ地元の芸術系大学や専門学校とも連携を進めていき、生徒の出口としての選択肢を増やしていかなければならない。

進学か就職かという進路指導の枠ではなく、生徒自身の人生を見据えたときにどう学校として関わっていけるかという、キャリア教育としての進路指導ができる教職員のスキルアップが課題である。

（４）まとめ

“芸術を学べる高校”という一貫した特長を今後も強く打ち出し、従来からの不登校経験者や学力不振に悩む生徒だけではなく、誰からも積極的に選ばれる学校を目指していきたい。質の高い学びと、キャリア教育・進路指導を一層充実させ、生徒・保護者・中学校等関係する方々に支持される学校として、これからも独自の教育を行っていく所存である。

学校法人　恭敬学園
北海道芸術高等学校
学校評価委員会

令和5年度　学校評価

北海道芸術高等学校（広域通信制・単位制）

学校法人恭敬学園　学校評価委員会

令和5年度　学校評価　　北海道芸術高等学校

教育理念	表情もまた学力である

教育目標	芸術を通し、高い倫理観・道徳律を養い、コミュニケーション能力、感性に富んだバランス良い生徒の育成

教育方針	1　個性と感性の尊重：個性溢れる創造力の育成 2　選択と自由の尊重：何を学ぶかを、自己の責任において自由に選択できる環境の提供と、判断力の育成 3　挑戦と失敗の尊重：積極的に挑戦する自主性と失敗から学ぶ態度の育成

中長期重点目標 （学習指導）	1　学習における、学ぶ姿勢の定着を図る 2　学習における、基礎学力の定着を図る 3　目標達成のために必要な学力を把握し、振り返りや応用学習に努める 4　新しい授業方法への取り組み（ICT教育）を積極的に取り入れる

中長期重点目標 （生徒指導）	1　自由と責任を考え、自主・自立を促す 2　それぞれの将来を見据た、基本的生活習慣の確立 3　学習をとおして、自己表現、他者との関わりや信頼関係、コミュニケーション能力を育くむ

中長期重点目標 （進路指導）	1　自らの興味関心・能力・適性を把握し、納得のできる進路選択ができるように支援する 2　早期の段階からキャリア教育を展開することで、自らの進路に対して視野を広げる 3　芸術進路研修やインターンシップなどをとおして各業界に繋がるチャンスを与える

（評価／　A：よく出来ている　　B：まあまあ出来ている　　C：あまり出来ていない　　D：出来ていない）

事項	評価項目	評　価	課題や改善策等
1　教育課程・学習指導	1　指導目標、指導計画、授業時間数などの教育課程の適切な編成・実施状況	A	教育課程の確実な実施をしている
	2　生徒による授業評価の結果	A（－）	科目によっては授業の工夫が必要
	3　教材・教具・図書等の整備と活用状況	A	iPadを利用した授業展開を進める
	4　外部人材の活用状況	B	地域毎の活用状況が違う
	5　地域の自然や文化財等の教育資源の活用状況	B	一部教科で仁木町の特産品を用いた授業を展開
2　生徒指導	1　生徒指導体制の整備状況	A	生徒指導規程の積極的活用
	2　教育相談体制の整備状況	B	教育カウンセラーによる講習会の実施
	3　家庭・社会・関係機関等との連携状況	A（－）	家庭とGoogleを用いた情報共有
	4　問題行動等の状況及びそれへの対応状況	B（＋）	
3　進路指導	1　進路指導体制の整備状況	A	各地域に進路担当を置き情報を集約する
	2　職場体験の実施状況	B	コース毎に偏りがある
	3　進路指導の実施状況（職業観、適性、情報収集等）	A	ガイダンスなどの情報提供
	4　家庭、上級学校、企業等関係機関との連携状況	A	
4　安全管理	1　学校安全管理計画等の作成・実施状況（安全管理体制の整備状況を含む。）	A	
	2　危機管理マニュアル等の作成・活用状況	A（－）	マニュアルの積極的な活用
	3　教職員及び生徒の安全対応能力の向上を図るための取組状況	B	外部研修会への参加を行う必要あり
	4　安全点検の実施状況	A	北海道の基準に沿った施設安全点検実施
	5　学校防災計画の作成・実施状況（災害発生時の応急対応体制の整備状況、避難（防災）訓練の実施状況	A	本校での避難訓練の実施と各地域での訓練の実施
	6　家庭・社会・関係機関等との連携状況	A（－）	行政・警察との連携のさらなる強化をする。

事項	評価項目	評　価	課題や改善策等
5　保健管理	1　学校保健計画等の作成・実施状況（学校環境衛生の管理状況を含む。）	B	年間を通じた周知方法を確立する
	2　職員の健康診断の実施状況	A	
	3　心のケアの体制整備状況や健康相談活動、薬物乱用防止教室の実施状況	A（－）	定期的な専門家からの指導
	4　生徒の自己健康管理能力向上のための取組状況	B	生徒の健康に関する意識向上を図る
	5　家庭や保健関係機関（保健所、医療機関等）との連携状況	A	
6　特別支援教育	1　校内支援体制の整備状況	B	カウンセラーの活用
	2　医療、福祉等の関係機関との連携状況	A	学校医や学校薬剤師との連携を取っている
7　組織運営	1　学校の明確な運営・責任体制の整備状況	A	
	2　教職員の勤務時間等の把握	A	
	3　学校事故への対応状況	A（－）	報・連・相の徹底
	4　情報管理の状況（公文書の作成・収集・保管、個人情報の保護等）	A	
8　保護者・地域住民等との連携	1　保護者との連絡の充実状況	B	さくら連絡網やGmailのアカウントを付与
	2　地域との連絡の充実状況	A（－）	小学校への読み聞かせなど参加
	3　教育相談体制の整備状況	B	教育カウンセラーを常駐させ対応
	4　保護者や地域を対象とする意見収集	B	アンケートなどを積極的に実施予定
9　施設・設備	1　施設・設備の効果的な活用及び点検等の状況	A	
	2　学習・生活環境の充実のための取組状況	A	
10　学校経営	1　学校法人の経営状況	A	

学校評価アンケート（生徒）

		質　問	平均		
			2021	2022	2023
学校生活	1	私は、北芸に入学して良かった	4.1	4.2	4.3
	2	私は、目標を持って学校生活を送ることができた	3.8	3.9	3.8
	3	挨拶・礼儀・思いやりの気持ちなどの指導はなされている	3.8	4.3	4.1
	4	芸術が学べるという本校の特色を生かした学校づくりがなされている	4.1	4.3	4.3
授業や学習	5	スクーリングの出席・レポート提出・試験など単位修得に係る卒業要件などについて、わかりやすく説明されている	3.9	4.2	4.0
	6	授業は、理解しやすく工夫されている	3.6	4.0	3.9
	7	私は、積極的に学習に取り組むことができた	3.5	3.6	3.6
	8	特別講師による授業や学外学習など外部の人材や教育資源を活かしている	3.9	4.0	3.9
	9	映像授業（オンデマンド）は、理解しやすい	3.4	3.8	3.6
	10	レポートは、理解しやすい	3.7	4.0	3.7
進路	11	進路指導は、丁寧かつ適切に行われている	3.9	4.4	4.0
	12	私は、将来の生き方や進路についてよく考えることができた	4.0	4.1	4.1
行事	13	バスハイク・スポーツ大会・発表会など学校行事は充実している	3.7	3.9	3.9
	14	生徒会は、主体的かつ積極的に活動している	3.6	3.9	3.7
生活指導	15	教職員に対して、生徒や保護者は、悩み事・相談事などがあった場合、気軽に相談できる環境・雰囲気である	3.9	4.1	4.0
	16	学校において体罰(教員による暴力・暴言)があったことを見た又は聞いたことはない	4.4	4.7	4.4
	17	教室や施設は、気持ちよく整理・清掃・整備されている	4.0	4.4	4.3
	18	教職員は、生徒対応を親身にかつ適切に行っている	4.0	4.5	4.2
	19	学校からの重要な連絡などは十分に伝わっている	3.2	3.9	3.3
その他	20	ホームページ・学校案内・体験入学等広く中学生や入学希望者に知ってもらう努力を十分に行っている	3.9	4.2	4.0
	21	学校からのお便りや通信などで必要な情報を適切に発信している	3.6	4.1	3.6

学校評価アンケート（保護者）

		質　問	平均		
			2021	2022	2023
学校生活	1	私(保護者)は、子どもを北芸に入学させて良かった	4.3	4.3	4.4
	2	生徒は、目標を持って学校生活を送ることができた	3.9	4.0	4.1
	3	挨拶・礼儀・思いやりの気持ちなどの指導はなされている	3.9	4.1	4.0
	4	芸術に特化した教育など、本校の特色を生かした学校づくりがなされている	4.2	4.2	4.3
授業や学習	5	スクーリングの出席・レポート提出・試験など単位修得に係る卒業要件などについて適切に説明されている	4.1	4.3	4.3
	6	授業は、理解しやすく工夫されている	3.7	3.8	3.9
	7	生徒は、積極的に学習に取り組むことができた	3.6	3.8	3.8
	8	特別講師による授業や学外学習など外部の人材や教育資源を活かしている	3.9	3.9	4.0
	9	映像授業（オンデマンド）は、理解しやすい	3.5	3.7	3.7
	10	レポートは、理解しやすい	3.7	3.9	3.8
進路	11	進路指導は、丁寧かつ適切に行われている	3.7	4.1	4.1
	12	生徒は、将来の生き方や進路についてよく考えている	3.9	4.0	4.1
行事	13	バスハイク・スポーツ大会・発表会など学校行事は充実している	3.8	3.7	4.0
	14	生徒会は、主体的かつ積極的に活動している	3.6	3.8	3.8
生活指導	15	教職員に対して、生徒や保護者は、悩み事・相談事などがあった場合、気軽に相談できる環境・雰囲気である	3.8	4.0	4.1
	16	学校において体罰(教員による暴力・暴言)があったことを見た又は聞いたことはない	4.4	4.5	4.6
	17	教室や施設は、気持ちよく整理・清掃・整備されている	4.2	4.4	4.4
	18	教職員は、来校時や電話対応は親身にかつ適切に行っている	4.3	4.4	4.5
	19	学校からの重要な連絡などは、十分に伝わっている	3.9	4.2	4.1
その他	20	ホームページ・学校案内・体験入学等広く中学生や入学希望者に知ってもらう努力を十分に行っている	4.0	4.1	4.2
	21	学校からのお便りや通信等で、必要な情報を十分に得られている	3.9	4.1	4.0
		調査人数	479	256	400

令和５年度　事業計画の概要

（１）生徒募集及び広報活動等

◆実績：令和５年度新入生６０１名（北海道芸術高等学校）
　　令和５年度新入生９４名（福岡芸術高等学校）
　　令和５年度新入生５８名（東北芸術高等専修学校）
　　令和５年度新入生１１７名（横浜芸術高等専修学校）
　　令和５年度新入生２５７名（愛知芸術高等専修学校）

◆募集広報戦略
①中学校との信頼関係の強化を図る
中学校３年生からの入学者がほぼ１００％を占める当学園においては、中学校との信頼関係構築は絶対的なことであり、揺るぎない事実であることから、出身中学校（入学実績校）に生徒の状況報告、卒業後の進路報告等を丁寧に行っていく。学校案内等の資料を届けるのではなく、進路選択において必要な情報をタイムリーに提供する。
また、中学校教員向けに独自の学校説明会を実施し、恭敬教育を感じてもらうことにも今後注力をしていきたい。

②インターネット上での広報活動の強化
Instagram や TikTok、twitter など写真や動画をメインとした学校情報発信ツールや映像配信などを活用する。インターネットでの広報活動を活発化させる。

③広報展開
対象地域の中学校教員向けに、今までの変更点や受験に関する情報など懇切丁寧に説明をして、理解を深める努力をしていく。

（２）教育活動の充実と生徒対応

◆目標：アンケート調査回答のひとつである「当学園に入学して良かった」と思える割合が回答全体の１００％を目指す。

◆目標達成のための施策
究極には「生徒の満足度１００％」が教職員としての使命・職責であるが、生徒・保護者アンケート調査の「当学園に入学して良かった」とする回答９０％以上を最低ラインとして設定する。そのための施策として以下を行う。

①個人面談を中心にコミュニケーションを図りつつ、教職員・担当講師も情報共有できる仕組みを作る。生徒のみならず保護者にも積極的に連絡をとり、家庭での様子などを参考にしながら保護者との情報共有を図っていく。教職員はカウンセリングマインドを持って対応に当たる。また、問題事象発生時に複数の教職員で連携して対応できるように教職員間の情報共有を徹底し、生徒指導および管理職への報告も徹底する。

②出席チェックを徹底し、欠席過度者には面談を行い（当然保護者へも連絡）早期対応を行う。
メンタル面に問題のある生徒には、定期的なカウンセリングを実施し、全教職員で問題解決に当たる意識をもって対応をする。また、カウンセラーとの連携を図り、相談の内容によっては専門家へ繋ぎ問題解決を図るようにする。ひとりで問題を抱え込まないよう、教員間で連携を密に図る。

③進路決定・卒業率目標達成に繋げるため、１年次より年次進行にて指導を進める。個別面談や三者面談を通じて、本人の進路への希望調査を行いながら、本人・保護者・教職員間で情報共有を図る。
進路指導に当っては、進学か就職かという短期的なものではなく、どう生きるか、なぜ働くのか、といったキャリア教育の視点を取り入れていく。

学校法人恭敬学園

事業活動報告書

令和５年度

【設置する学校】
北海道芸術高等学校（広域通信制・単位制）
福岡芸術高等学校（狭域通信制・単位制）
東北芸術高等専修学校（文化・教養高等課程、衛生高等課程）
横浜芸術高等専修学校（文化・教養高等課程、衛生高等課程）
愛知芸術高等専修学校（文化・教養高等課程、衛生高等課程）

事業活動報告

学校法人恭敬学園の令和５年度（自令和５年４月１日至令和６年３月 31 日）事業活動報告は下記の通りである。

１　財務

項　　目	令和５年度	令和４年度
事業活動収入	2,760,104 千円	1,804,588 千円
基本金組入前 当年度収支差額	670,145 千円	345,327 千円

２　新入生数及び在籍者数

項　　目	令和５年度				
設 置 校	北海道芸術 高等学校	福岡芸術 高等学校	東北芸術 高等専修学校	横浜芸術 高等専修学校	愛知芸術 高等専修学校
新入生数	601 人	94 人	58 人	117 人	257 人
在籍者数	1,411 人	227 人	161 人	277 人	582 人

（注）

１．新入生は、令和５年度（５月１日）入学者合計数

２．在籍者は、令和５年度（５月１日）在籍者合計数

３　事業活動報告

狭域通信制高校である福岡芸術高等学校の開校、高等専修学校と通信制高校を併修する新たな教育の提供を“恭敬教育”という概念に置き換えて、競合校との差別化を図ることが出来た。

19 年目を迎える広域通信制の北海道芸術高等学校は、“芸術を学べる通信制高校”という一貫した特長が、それぞれの地域の中学校にも浸透し、不登校を経験した生徒や学力不振に悩む生徒だけでなく、自ら、希望する進路を見据えて入学をしてくる生徒も年々増加している。進路指導を更に充実させ、生徒、保護者、中学校等関係する方々に支持される学校としてこれからも鋭意努力をしていく所存である。

法人が設置する学校にとっての「魅力ある学校づくり」を実現するために①カリキュラムの充実②不登校経験者等への精神的ケア③進路指導の充実を継続していく。

① カリキュラムの充実
シラバスの改善などを毎年見直しながら教育内容の充実を図り、きめ細かい生徒対応をしていき「通いたくなる学校」づくりをしていく。
また、教務部を中心に教科間の連携を増やし、先ずは各教科内で研修や、各々の授業見学をするなどし、積極的機会を設ける。

② 生徒のメンタル面へのサポート体制
コース別担任制とそれをサポートするカウンセラーの協力態勢が有効的に機能しているが、開校以来学校として蓄積してきたノウハウや教職員のスキルの向上により、生徒の学校での生活態度が安定している。
　教職員への研修として、「教育カウンセリング」資格取得に向けて取り組んでおり、生徒や保護者対応への成果も見られていることから、より多くの教職員がこの研修を受けさらにスキルアップできるようにしていきたい。

③ 進路指導の充実
生徒ひとりひとりとの個別面談を繰り返し、難関と言われる芸術系の大学や専門学校への進学、技術や資格を取得し、美容室やネイルサロン、ファッション販売等の就職決定者数も、求人数の増加があるものの、年々上昇しており、専門分野への道を選択している生徒の進路決定は堅調である。このことについては、日ごろの指導及び新たな就職先を開拓する職員の努力が大きい。
　家庭の経済的事情により、進学したくても出来ない生徒もおり、奨学金の利用などを含めて、様々な情報を提供し、一人でも多くの生徒が希望する進路につけるように指導を強化していきたい。